



水土里ネット立梅用水が後援しました

みんなで楽しもう 農村体験を開催!!



用水が出来上がるまでを紙芝居で学び、その後、海草と井戸水で作ったカフェブルサトヤ特製のところてん突きを体験・試食しました。子どもたちもスル〜リと出てくるところてん突きに大喜び。少し大人の味がするところてんでしたが初めての楽しい体験になりました。

そして、地元の方からシュロの葉っぱでバツタ作りを教えてくださいました。シュロの葉っぱ1枚でバツタができるなんてビックリです。なかなか難しいけど、コツさえつかめれば大丈夫です。一人で何匹も作る子もいたり、帰ってからお母さんと作って夏休みの親子作品に出品したよ!というお話も聞きました。最後はお待ちかねの立梅用水のボート下りです。紙芝居で勉強した素掘りのトンネルを実際にボートで下り、昔の人がノミで掘って造ったトンネルを見たり触ったりし、学んだことを実際に体で感じる事が出来ました。

何度来ても楽しいなと思ってもらえるような“みんなで楽しもう農村体験”をこれからも続けていきたいと思っています。ぜひ、8月1日は多気町にお越しください。



多気町勢和地域資源保全・活用協議会では、多面的機能支払交付金を活用した取り組みとして、毎年8月1日の「水の日」に“みんなで楽しもう農村体験”を開催しています。

今年は、13家族34名の方が参加され、西村彦左衛門生家も朝から子どもたちの楽しそうな声で大賑わいです。立梅

改良区が大学と協力してサマーセミナーを開催

中勢用水土地改良区は、毎年地元の三重大学と協力して農業の知識を深めてもらおう、とサマーセミナーを開催している。

今年も8月上旬に予定していたが、台風の到来で開催出来ず平成29年9月28日午後1時半から同改良区二階会議室で第14回サマーセミナーを開催した。

今回は三重大学生物資源学部四回生・藺田敦之さんが「自動給水栓の効果について」、同大学生物資源学部の近藤雅秋助教が「ヒシ群落を有する農業用ため池における渇水年灌漑期の水質変化」と題して講演。本改良区の理事のほか、東海農政局・中勢支所や三重県、三重県土地改良事業団体連合会、宮川用水と青蓮寺用水土地改良区の職員等関係者22名が出席して熱心に聞き入った。

自動給水栓の効果については、給水量と降水量の関係を調査して自動給水栓の効果を説明したあと、かけ流しや畔の崩壊により無駄水の発生を確認したことや、ポンプの稼働時間から減水深を特定したことを発表した。出席者は一応に自動給水栓の効果については理解を示していたが、「稲は生き物である。手作業での水管理により、その時の状況



セミナーの様子

で判断することが重要」との意見があり、今後自動給水栓と手作業での水管理の比較検討の研究をお願いしていた。

ヒシ群落を有するため池の水質変化では、渇水年灌漑期においてヒシが発生しているため池は、COD（化学的酸素要求量）の数値が悪かった等の調査データが報告された。出席者の中からは「半世紀前と比べると池の水は透明度が悪い。原因を究明してほしい」等の意見があった。